

札幌国際大学短期大学部

平成18年度第三者評価
機関別評価結果

平成19年3月22日

財団法人 短期大学基準協会

札幌国際大学短期大学部の概要

設置者	学校法人 札幌国際大学
理事長	和野内 崇弘
学 長	神尾 和正
A L O	竹内 康二
開設年月日	昭和44年4月1日
所在地	北海道札幌市清田区清田四条1-4-1

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
英語コミュニケーション学科		50
総合生活学科		75
幼児教育保育学科		140
	合計	265

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

専攻	入学定員
幼児教育専攻	10
	合計 10

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

札幌国際大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年6月22日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

短期大学の在り方が時代と地域性という難しい局面の中で問われる今、教職員が一体となり、よい人材を育てるために大いに努力されている。

教育課程は教育理念、目標に沿ったものとなっており、教養教育、専門教育とも資格・検定を意識した科目構成となっていて、キャリア教育に重点を置いたものとなっている。それは多様な学生のニーズに応えたものといえる。

教員数は短期大学設置基準で定める専任教員数に達しており、教員組織は各学科の教育目標に基づいた教育課程に応じて適切に整備されている。また、教育環境は、講義系教室、パソコン室、LL教室、運動場、体育施設など、その授業内容や目的に応じて整備され、活用されている。さらに、併設大学との共用施設である図書館の教育環境も充実しており、図書館活動の更なる発展を目指して努力している。

おおむね良好な単位取得状況および高い就職率から、教育目標は達成され、教育効果も十分なものであると判断する。

入学、学習、学生生活、進路に関し、学生支援体制が整備され、きめ細かな指導、支援が実施されている。

教育の質を高める研究活動が外部研究費の導入や個人研究費の利用で充分に行われている。紀要などでその成果は公表されており、教員の研究への取組みは高いものといえる。

主に授業科目との関連で、ボランティア活動など社会的活動が積極的に推進され、地域貢献に大いに取り組んでいる。また社会人を対象としたオープンカレッジや公開講座を開講し、地域社会に向けて学習の機会を提供している。

学校法人としての管理運営体制、教授会、職員組織が全体としてよく整備されている。

財務状況は健全で、事業計画、予算などの作成プロセスも適切に行われている。

自己点検評価に関しては、その実施体制、システム構築、また、相互評価体制に多大な努力が払われている。特にファカルティ・ディベロップメント（FD）研修会などを開催し、カリキュラムの工夫、授業の満足度などが議論されている。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

建学の礎に則った教育目標が具体的に教養科目のカリキュラムにいかされている。

評価領域 教育の内容

単位取得と検定受験による資格取得などのキャリア教育への積極的な取組みがなされている。

札幌市内の大学・短期大学で実施している「グリーンキャンパス制度」に加盟、学生のニーズの多様化に対応した取組みを行っている。

毎年、公開授業月間を設け、授業公開を実施し、終了後、検討会を開催するなど、継続的なFD活動がなされている。

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

教育の効果は、卒業生に対する卒業後学生評価の結果において企業や保育現場から得られた高い評価に表れている。

評価領域 研究

個人研究費とは別に、顕著な研究に対し、短期大学独自の財政支援を行っている。

科学研究費補助金などの申請は過去3年間毎年行われ、平成16年度は2件採択されているなど研究努力がなされている。

複数教員による共同研究活動への取組みがなされている。

評価領域 管理運営

教職員を対象とする資格取得のための費用援助制度があり、教職員の質的向上に努めている。

評価領域 財務

財務状況が良好であると判断できる。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域 教育の内容

2005年版から2006年版のシラバスへの改善はみとめるが、まだシラバスには、毎時間の授業内容が具体的に理解できるように記載されていない科目があるので、さらなる記載方法の改善に努められたい。

評価領域 教育の実施体制

障害者に対応したキャンパス環境の整備が望まれる。
教員の年齢構成の偏りについては是正が望まれる。

評価領域 学生支援

カウンセリング体制の整備を図ることが望まれる。

評価領域 研究

既存の海外や国内の姉妹校への研修制度の奨励や活用が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域	教育の内容	合
評価領域	教育の実施体制	合
評価領域	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域	学生支援	合
評価領域	研究	合
評価領域	社会的活動	合
評価領域	管理運営	合
評価領域	財務	合
評価領域	改革・改善	合

評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

平成9年に前身である静修短期大学の建学の精神を大幅に見直し、建学の礎を設定し、自立した自由な個人と地域に貢献する主体を育て、日本人としてのアイデンティティを大切にすると明記している。

建学の礎および教育の基本的考え方（教育の場とは自分で自分を育てる場）に従って各学科が教育目標を明確に設定している。点検は学科会議、教授会、各部会などで行っている。

教職員に対しては理事長の講話において、学生に対しては理事長、学長の講話および新入生オリエンテーションにおいて、教育の基本的考え方が再確認されている。

短期大学の在り方が時代と地域性という難しい局面の中で問われる今、教職員が一体となり、よい人材を育てるために大いに努力している。

評価領域 教育の内容

教育課程は建学の精神に基づく教育目標を達成するための十分な内容とレベルを有し、主要な科目には適切に専任教員が配置されるなど体系的に編成されている。特に教養教育への取り組みは全学的なものとなっていて、新入生への配慮が行き届いており、学ぶことの意義や社会との関わりについて授業が展開されていることが大きな特徴といえる。学科間の単位修得割合に若干のばらつきがあるが、単位認定と評価は、おおむね適切に行われている。さらに、教育課程の見直しに関しても、学科毎に毎年行っており、教育課程改善への努力がうかがわれる。

教育課程が資格・検定に収斂しているのが大きな特徴であり、そのことは短期大学設置基準第4章教育課程で掲げられている「...短期大学は、学科に係る専門の学芸を教授し、職業または實際生活に必要な能力を育成する...」を実践していることにほかならない。総合生活学科と英語コミュニケーション学科では、選択科目を多く用意し、科目選択の自由度を高め、免許、資格の取得や学生の多様なニーズに配慮した教育課程になっている。そして常に見直し作業を実行していることは評価できる。

毎年シラバスが作成され、学科、専攻科、図書館司書課程について、それぞれ科目一覧表、資格認定表（全国大学実務教育協会）を添え、学生の便宜に応えるものとなっている。

学生による授業評価が定期的に行われ、その結果は教員にフィードバックされ、授業改善に寄与している。FD活動や公開授業も継続的に実施され効果をあげている。教員間、学科間の意思疎通も充分に行われている。次年度へのビジョンもあげられており、その面でも授業内容への改善努力は十分なものと評価できる。

評価領域 教育の実施体制

教員数は短期大学設置基準で定める専任教員数に達している。また教員は、教育目標に基づいた教育課程を展開する上で必要な資格と資質を有し、教員の年齢構成には多少の偏りがあるが、おおむねバランスが取れている。さらに、教員の採用・昇任については、「教員資格審査基準及び任用審査規程」に基づき適切に行われている。

校地および校舎の面積は短期大学設置基準値を上回っている。大学との共用施設である情報教育センターには、パソコン教室が6室、LL教室が2室、パソコン実習室が1室あり、パソコン室は日常的に学生に開放され、学生への利便が図られている。また1号館の全ての講義系教室には、液晶プロジェクターや実物投影機などの視聴覚機器が配備され、そのほかの教室にも授業内容や目的に応じた機器・備品が配備されている。さらに、運動場および体育施設は十分な広さを有し、体育系の授業やクラブの活動場所として利用されている。

図書館の広さ、閲覧室の座席数、蔵書数、司書および図書検索システムなどを含むサービス体制などの状況から、図書館利用環境は適切に整備されていると判断できる。また、購入図書選定および廃棄システムは、札幌国際大学図書館管理規程に基づき体系的に確立されている。さらに、図書館活動のさらなる発展を目指して努力している。

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

教育目標を達成すべくカリキュラムの改善、教育環境の充実など全学を挙げての様々な努力が組織的になされている。特に進路、就職という観点で評価すると、教育目標

の達成度は就職率の高さに表れており、社会からの評価も高いものとなっている。
学生の卒業後評価への取組みの努力は、卒業生に対する企業や、保育現場からの高い評価に結実しているといえよう。その結果を更に今後の発展、展開にいかそうとしていることは、評価に値するものである。

おおむね良好な単位取得状況および高い就職率から、教育目標は達成され、教育効果も十分なものであると判断する。

評価領域 学生支援

入学に関する支援は入学生の立場に立った様々な方法できめ細かに行われている。

入学時および学期ごとのガイダンス、アドバイザー制度などにより組織的に学生支援が行われ、適切に機能している。

学生生活支援体制はおおむね整備されている。メンタルケアやカウンセリングに関する対応は今後の検討課題とされたい。

教職員が一体となって十分な進路支援活動が行われている。

評価領域 研究

研究活動に関しては、教員間で若干の差異があるが、おおむね良好に展開され、研究が教育の基盤となっている。研究成果は毎年『札幌国際大学紀要』上で公開されている。また、科学研究費補助金などの申請は過去3年間毎年行われ、平成16年度は2件採択されている。さらに、幼児教育保育学科では、附属幼稚園や地域の教育機関との共同研究を実施し、研究成果を教育内容などの改善に役立てている。

研究室は快適な空間が維持されるように配慮され、研究費および教育研究にかかる機器備品費が充分確保されている。また、特に顕著な研究に対して、短期大学独自の財政支援を行っている。グループ研究については、外部の研究費獲得を奨励し、教員側もそれに向けて努力している。『札幌国際大学紀要』が毎年発行され、発表の機会が確保されている

評価領域 社会的活動

実務教育の一環として、ボランティア活動を中心に様々な社会的活動が推進されている。また、社会人を対象とした各種資格取得のためのオープンカレッジや、他大学の公開講座を「夕学講座サテライト」と題してサテライト教室で開講し、地域社会に向けて学習の機会を提供している。

「地域の人々と交流するとともに、ボランティア活動に自発的かつ積極的に参加しよ

うとする意欲や態度を身に付ける」ことを目標に、主に授業科目との関連で、地域の清掃活動や各種行事への協力、オペレッタや人形劇などの授業成果の地域住民への公開など、社会的活動が盛んに促進され、地域社会に大いに貢献している。

国外の姉妹校は、韓国に3校、カナダ、オーストラリア、中国に1校ずつあり、その中の1つであるビクトリア大学（カナダ）に、授業の一環として学生を派遣し、英語研修および文化研修を実施している。

評価領域 管理運営

「改革」「スピード」を運営の柱として、理事長の強力なリーダーシップが確立されている。また、理事会、評議員会、監事の機関としての働きも私立学校法また寄附行為に基づき適正に行われている。

教授会は適正に運営されている。また、必要とされる部会、委員会は規程に基づき設置され、活発に活動が行われ、情報もしっかり共有されている。学長も各責任者とフェイスツーフェイスで行うルールに則り、意思統一の仕組みがよくできている。

事務組織は大学・短期大学の合同組織として、規程に沿って適切に行われている。事務職員の対応についてのアンケートをとるなど、改善の努力も活発に行われ、おおむねスタッフ・ディベロップメント（SD）活動全体が確立されている。

人事管理については就業規則に基づき適正に行われており、特に問題はないと思われる。

評価領域 財務

当年度の事業計画・予算のみならず中・長期計画についても策定プロセスが明確であり、また、管理もしっかりしている。

繰越消費収入超過額、消費収支比率、負債率などから見て、財政状況は極めて健全である。

管理規程が整い、備品・施設設備などが適切に管理されていると思われる。また、危機管理面でも、防犯対策、省エネ対策などの配慮がなされている。

評価領域 改革・改善

平成14年から、副学長を委員長に改善委員会を設け、改善計画が実施されている。

平成15年から自己点検・評価報告書を発行しており、自己点検・評価に前向きに取り組んでいる。

短期大学全体としての問題点を整理するために多くの教職員が第三者評価委員として

参加している。またFD研修会を開き、改善のための意見や情報交換がなされている。平成5年から平成15年まで学外有識者からなる外部評価機関「教育懇話会」から評価を受けている。第三者評価が制度化されたため本年度解散となったが、新しい視点からの相互評価を受ける体制を検討している。